

大草谷津田いきものの里 自然観察会

クモはおもしろいぞ！ パート2

小川洋子（八千代市）

日 時：2016 年 10 月 16 日（日） 10：30～12：00 天候：曇り

参加者：31 名（大人 15 名、子ども 16 名）

担当指導員：和仁道大、小川洋子

久しぶりにお天気に恵まれた週末、開始時間前に若いお母さんたちが小さなお子さんを連れて続々集まってきた。すべて学齢未満の幼児、中には1歳前後の乳児も。広場は始まる前から賑やかだ。

スタートして、歩きながら子どもたちにクモの網を探してもらった。低い位置にあるウズグモの網を子どもたちはよく見つけた。スプレーをすると渦巻きがきれいに浮かび上がった。また枯葉を巻いて隠れているハツリグモも見つけた。目線が低い子どもたちはウズグモなど地上すぐに張られたクモの網を探すのが得意だ。

林縁では緑色の小さなマツの葉のような物がぶら下がっているのを見つけた。オナガグモだ。カップに採ってお母さんたちに見てもらう。マツの葉（？）からなんと8本の足が出てきた。「これがクモ？」と皆さんびっくりしていた。同じく林縁で見つかったオウギグモ、名前の由来ともなった扇形のユニークな網を張る。網の主は扇の要の位置で獲物を待っていた。

目を上にあげれば木の枝に大きな網が見えた。こちらはジョロウグモ、秋に多く見られるクモだ。スプレーで水をかけると細かいきれいな五線譜様の横糸の形がくっきりと見えた。網の糸に触ってもらい枠糸は太くてベタつかないが、横糸はベタベタすることを確認してもらった。ベタベタしない枠糸はクモが網を張るときに外枠を決めるためのもの、ベタベタの横糸は獲物を捕らえるためのものだ。網の中心に陣取るのはメスグモ、腹部は黄色と灰色の縞模様、裏側は赤斑が目立った。8個ある目をルーペで見てもらったが、確認するのは難しかったようだ。

田んぼの畔に降りると草の高さ50センチくらいの辺りに大きな円網が見つかった。これはナガコガネグモの網。この時期田んぼの周りにたくさんいるコバネイナゴが網にかかった。あっという間にシート状の糸で獲物をグルグル巻きにしてしまった。この早業に参加者もこんな光景を見るのは初めてと感激していた。

本日のテーマは「クモ」、小さい子どもたちの反応が少々心配だったが、感想を聞くと親子とも「楽しかった」という声ばかり。従来のイメージとは違ういろいろなクモと出会って、クモへの認識が変わってくれたならうれしいことだ。

たくさん子どもたちの参加はうれしく将来が楽しみだが、担当2人だと十分目が行き届かない面がある。今回はフリーの指導員が4人参加してくれ、小さい子どもたちに目を配ってくださりとても助かった。指導員の皆様、お時間がありましたらご一緒に大草で観察会を楽しみませんか。